

オーケストラ シンフォニカ 東京

第 39 回

定期演奏会

平成10年 4月20日(月) 午後 7:00 開演

カザルスホール



プログラム

第 1 部

指揮：山本雅三

ミュージカル名曲集

中川信良・編曲

組曲「子供の夢」

高橋八郎

服部克久・「音楽畑」より

服部克久
(編曲：山本雅三)

鯨のボレロ
と
淡紅色の夢
自由の大地

〔休憩〕

第 2 部

指揮：石黒不二夫

シンフォニア イ長調

B. ヘンツェ

第1楽章 アレグロ リゾルート

第2楽章 アンダンテ マノン トロッポ

第3楽章 ミヌエット


第4楽章 フィナーレ・アレグレット スケルツォーソ

酋長の行列 ～ 組曲「コーカサスの風景」より

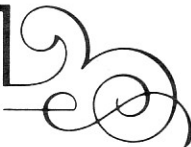
M.I. イヴァーノフ
(編曲 赤城 淳)

序曲第4番 ロ短調

K. ヴェルキ



曲 目 解 説



第 1 部

ミュージカル名曲集

中 川 信 良 編 曲

「マイ フェア レディー」・「南太平洋」・「王様と私」・「屋根の上のヴァイオリン弾き」・「サウンド オブ ミュージック」・「キャッツ」・「ウエストサイド物語」……映画・舞台でおなじみの数多いミュージカルの中でも、特に人気の高い7つの作品から、その代表作を1曲ずつ選び構成されたメドレーです。

尚これは、昨年No.13の編曲集を刊行するなど、マンドリン合奏の作曲・編曲で活躍されている中川信良氏が、1996年の第15回神奈川マンドリン フェスティバルの合同演奏の指揮を担当される際に書きおろした編曲で、その後改訂されたものです。

組曲「子供の夢」

高 橋 八 郎 (1902~1996)

ある日の昼下がり、ポカポカと暖い陽射しの差し込む子供部屋で幼い兄妹が遊んでいます。あんまり気持ちが良いので二人はだんだん眠くなってしまいました。気がつくと色々な人形や妖精たちが楽しそうに踊っています。そんな情景を様々な舞曲にのせて描いた愛らしい組曲です。

作者の高橋八郎氏はOSTにもゆかりのあるマンドリン界の草分けです。1902(明治35)年札幌に生まれ、14才よりマンドリン・ギターを独習し、大戦前は横浜マンドリン倶楽部でコンサート マスター・指揮者として活躍、またソリストとしてレコーディング・ステージ・NHKのラジオ放送で演奏活動をし、その演奏は武井守成氏より絶賛を受けました。1944(昭和19)年から10年間札幌に帰り札幌プレクトラム アンサンブルに所属、再び上京して1955(昭和30)年から3年、OST(タケイ)の指揮者となり第56~58回定演のタクトを振りましたが、以後は職場や学校のサークル等で後進の指導に当たりました。

この組曲は下記の7曲から成っています。

1. まどろみ …… 暖かな昼下がり、幼い兄と妹が子供部屋で遊んでいます。ポカポカとあんまり気持ちが良いので、いつの間にか眠ってしまいました。 さあ二人はどんな夢を見ているのでしょうか。
2. おもちゃ玩具の兵隊のタランテラ …… おや 子供部屋の人形たちが何やら動き始めました。まずは「玩具の兵隊」の登場です。元気一杯行進を始めました。
3. いらだちこけしの焦燥 …… 兵隊たちが楽しそうに動き廻っているのを見ていた「こけし」は踊りたくてたまりません。 踊れない「こけし」は苛立ちをせずめる為に、大きな声で歌い始めました。
4. 首振り人形のガボット …… となりにならんだ「首振り人形」も負けてはいません。大きく首を動かしてリズムにのって うれしそうにガボットを踊ります。
5. フランス人形のミヌエット …… みんなの楽しそうな様子をながめていた「フランス人形」も、やがて見ているだけでは物足りなくなりました。 きれいなドレスの裾をひるがえして優雅にミヌエットを踊ります。
6. 小人のポレロ …… 今度は どこからともなく小さな妖精たちがあらわれました。部屋中を駆け回ってコミカルな踊りを披露します。
7. 終 曲 …… 気がつくと、人形たちは皆 元の場所におさまっています。賑やかな音楽も聞えません。何もかも夢だったのでしょうか。幼い兄妹はチョッピリ淋しくなりました。 又あんな楽しい夢が見られるといいですね。

服部克久・「音楽畑」

服 部 克 久 (1936~)

作者は作曲家服部良一氏の長男として1936(昭和11)年に生れ、恵まれた音楽環境に育ちパリ・コンセルヴァトワール作曲科に留学して音楽家としての感覚と技術を学びました。1958(昭和33)年帰国後すぐに作曲家としての活動に入りましたが、その外にピアニスト・指揮者・音楽鑑賞・プロデューサー・音楽団体役員・司会など幅広い分野で活躍しております。

「音楽畑」とは1984(昭和59)年からスタートした 氏のライフワークとも言うべき 器楽曲の作品集シリーズの題名です。美しいメロディーを持ち色彩感覚豊かで機知に富んだ珠玉の作品群はすでに10作目を数え、各地で「音楽畑コンサート」を開いて好評を博しています。

次に曲に寄せた自由詩風の作者の言葉を紹介します。

鯨のボレロ

鯨って大きいくせに可愛い目をしている。
馬でも兎でもそうだけど、あまりものを言わない動物に限って、
訴える様な、うるんだ様なやさしい目をしているのは…… 困る。
兎とか羊とか、ヨーロッパの人は好んで食べる。
食べつけると一寸、病みつきになる様なおいしさだけれど、
ヨーロッパの人は料理をしながら、あの訴える様なやさしい目を想い出さないのだろうか？
もっとも僕も尾の身や、コロなんか大好きだけれど、鯨の可愛い目や知能指数の事なんか考えないが……。
それじゃいかん…… と言っているのが、ニュージーランドの団体、グリーンピースです。
知ってか知らずか、今日も鯨は大空を悠々と渡って行く。

と きいろ 淡紅色の夢

小さな天窓から、真昼の月が見える。
鳥籠の中から見上げる少し色あせた半月は、羽をひろげて飛んでいる鳥の様にも見える。
あの月の様にもう一度大きく羽をひろげて、大空を飛びまわりたい…… と思ってしまう。
きらめく真夏の空を、黄金色に染った晩秋の森の上を、粉雪降りしきる平原を、
大勢の仲間たちと何処までも飛んで行きたい……。
淡紅色の風のように。

自由の大地

TBS系列“新世界紀行”のテーマとして作曲したもの。
生きる事って何だろう？
人間って何だろう？
考えすぎて わからなくなったら、一寸休んで、この曲を聞き給え。

第 2 部

序曲とシンフォニアについて

序曲とは本来はオペラ・オラトリオ・組曲などの大楽曲の初めに置かれ、主要部分への導入的な役目を持つ器楽曲のことですが、17世紀中頃から18世紀初頭にかけて、フランスとイタリアで形式化されバロック時代を通じてこの二つの序曲形式は愛好されました。フランス風序曲はオペラよりむしろ組曲の序曲として用いられ、イタリア風序曲は……「シンフォニア」……と呼ばれ古典楽派の器楽曲である交響曲の母胎となりました。古典楽派は序曲にもソナタ形式を用いていましたが、ローマン派に至るとソナタ形式がやめられ、序曲と言うよりも第1幕への前奏曲的な内容を持つ様になり、ワグナーやヴェルディも後に序曲の名称を捨てて前奏曲の名称を用いています。一方 導入的役目を持たず事実上は序曲でない独立した管弦楽曲が序曲の名称を用いることがありますが、これはソナタ形式で書かれた1楽章の交響曲で独自のものです。

シンフォニア イ長調

B. ヘンツェ (1900~1978)

ブルーノ・ヘンツェの父カール・ヘンツェは第1次世界大戦(1914~1918)後、ドイツのマンドリン界で輝かしい業績をあげています。彼の1人息子のブルーノは父よりギターを習い、1921年より1932年まで室内楽協会に所属して、オペラやオーケストラのギター奏者となりました。その間に作曲・和声・ピアノ・ハーブなどを習得し、1933年から20年間はベルリンでマンドリンオーケストラを結成して盛に演奏活動を行いました。1953年からは国民音楽学校を創立し専ら教育者として活躍しています。膨大なギター教則本(18巻)とマンドリンの作品約150曲の出版…… 第2次大戦で散逸した作品の収集出版…… は彼の功績として特筆されます。作曲家としての業績は5~6曲を除いて明らかではありません。代表作の一つがこの曲で1927年に発表され注目されました。トップ楽器(マンドリン系楽器)の為に書かれた大曲で第1第2マンドリン・マンドラ・ギターの4パートを2部に分け、更にフルート・クラリネット・オーボエ・ファゴットの木管4本を加えた重厚なオーケストレーションでドイツの古典的ソナタを再現しております。K. ヴェルキが初めて木管金管を使った「序曲No.1」を発表したのは1924年であり、ヘンツェは3年遅れて木管のみを編成に加えております。(本日の演奏はオーボエを除く3管編成です。) 管を加える手法は当時ドイツのマンドリン楽界の流行であったらしく、1930年代が最盛期で第2次大戦後(1945)は急に衰えて行きます。

酋長の行列～組曲「コーカサスの風景」より

M.I. イヴァーノフ (1859～1935)

ミハイル・イッポリトフ・イヴァーノフはロシアのグルジアに生れ、幼い時からコーカサス地方の民話や伝説・民族音楽に魅せられておりましたが、ペテルブルグ音楽院で国民楽派5人組の1人 リムスキー コルサコフに作曲を学ぶと共に、民族音楽について強くその影響を受けました。1882年からロシア音楽協会を設立するためチフリス（現在のグルジア共和国首都トビリシ）に赴任しましたが、ほぼ10年に及んだ滞在期間に、コーカサスの自然に親しみ民族音楽の研究も進めました。

彼は今日でもグルジア民族音楽の権威者として認められており、この分野での彼の著書は原典として広く知られております。

1893年、モスクワ音楽院の教授となりましたが、断ち難い郷愁の念にかられて作った曲がこの組曲「コーカサスの風景」であると言われ、1895年モスクワのロシア音楽協会の演奏会で作者自身の指揮により初演されています。

組曲は4曲あり、すべてグルジア民族音楽から取材したもので、描写的で東洋風なムードにあふれています。「峡谷にて」・「村にて」・「回教寺院にて」・そして4曲目が有名な「酋長の行列」です。「サルダールの行進」或いは単に「行進曲」と言っても通用します。サルダールとはコーカサスの酋長の呼び名のことです。

国民楽派5人組 …… 民族意識に基づく郷土的ロマン楽派のこと。19世紀後半になって音楽の後進諸国も民族意識の高揚を背景として、国民性に応じた芸術的音楽を生み出しました。ロシアの国民楽派は格林カに始まり、5人組といわれるボロディン・キュイ・バラキレフ・ムソルグスキー・リムスキー コルサコフがこれに続きます。

序曲第4番 口短調

K. ヴェルキ (1904～1983)

題名は序曲としてありますが、この曲は勿論独立した単楽章の交響的楽曲で通例の序曲ではありません。初期のヴェルキが好んで作った管楽器を編成に加えた大マンドリン オーケストラ作品12曲の内の一つで1928年に発表されました。この種の大編成オリジナル曲の作曲は、第2次大戦後はドイツ楽界の変化に伴い、主流たり得なくなりましたが、日本では重厚なシンフォニックな響きと音色彩の豊かさが好まれて人気不衰、演奏回数順位の上位を占めている曲も多くあります。

原曲はフルート・クラリネット・ファゴット・オーボエ・ホルンを加えた編成ですが、本日はオーボエを除いた3木管と打楽器で演奏します。

加除式法規書・法令解説書出版

中央法規出版株式会社

本社 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-4 電話(3379)3861(代表)
営業所 札幌・仙台・岐阜・大阪・広島・福岡

山本ミュージックコーナー

〒164-0003 中野区東中野1-43-7 JR東中野駅東口南下車3分 TEL(3363)9893

取扱品目

- ★ 手工マンドリン・ギター各種
- ★ 各社マンドリン・ギター
- ★ マンドリン・ギター用弦及附属品

お気軽にお立寄り下さい。

マンドリン教室

平山 英三郎 先生

ギター教室

平山 英三郎 先生

指	揮：*石 黒 不二夫	コンサートマスター	*肥 沼 成 明
	: *山 本 雅 三		*本 間 輝 樹
第一マンドリン	: *肥 沼 成 明 本 間 輝 樹	新 居 裕 久 秋 元 興 光	田 島 明 子 中 込 尚 子
第二マンドリン	: *岡 田 茂 後 藤 俊 明	藤 田 正 美 深 澤 秋 芳	坂 井 美 佐 子 山 崎 悦 子
マンドラ テノール	: *岩 片 順 子 田 中 倭 文 子	渡 辺 清 玉 木 利 恵 子	佐々木 興 治 ・滝 田 ふ さ 子
ギ タ ー	: *今 津 章 山 本 雅 三 河 村 欣 司	城 所 敏 雄 宮 本 紀 子 沢 田 行 雄	西 原 正 高 橋 悠 介
マンドチェロ	: 宮 崎 泰 行	梅 山 恵 美 子	高 橋 貴 久 子 平 田 陽 一
リュート・モデルノ	: *宮 本 皓 永		
マンドローネ	: *家 城 孝 治	宮 澤 栄 作	
コントラバス	: 佐 藤 正	久 保 田 聡	
フル ー ト	: ・辻 香 苗		
クラリネット	: ・佐 藤 路 世		
ファゴット	: ・鹿 野 智 子		
打 楽 器	: ・伊 藤 優		
ナレーション	: 高 橋 貴 久 子		

{ * ————— 役 員 }
 { • ————— 賛 助 出 演 }

オルケストラ シンフォニカ 東京 (OST)
 代表幹事 今 津 章
 事務所：〒241-0815 横浜市旭区中尾2-27-19 ☎045-363-1046